

「できて当たり前」が
苦手な人もいる



あれ？ リコ
それって何？



それって
みんなができて
思っていることを

できない人も
いるって
ことですか？

人より手間や時間
がかかったりする人も
いるってことね

ほかには例えば
ハサミで紙を切るとか

「できない」
というよりは
苦手だったり

なるほど



これは
「読め～るシート」
っていうんだ

わたし、教科書を
読むのが苦手だから

これを使うと
一行ずつ見えて
読みやすくて……

へー、教科書なんて
だれでも読めて
当たり前じゃないの



その「当たり前」が
苦手だからって

みんなと同じように
勉強をすることが
できないとしたら
どうしたらいいと思う？

うーむ？



その「当たり前」が
できるように
手伝ったり

何かくふうをしたら
いいと思う



「だれでも当たり前」？
たしかにそうかもね

せんせい
先生！

でも、その「当たり前」は
すべての人にとっての
「当たり前」じゃないかも
しれない

……って
かんがえてみない？



ぼくも、そうすれば
みんないっしょに
勉強ができると思う



そうだね
そして

そのお手伝いや
くふうすることを

「合理的配慮」
というの



みんなで学ぶための「合理的配慮」

「できないならしなくていい」は合理的配慮ではない

合理的配慮が、困難のある人が「できるようになる」ための手助けであることがわかったかと思えます。では、文字を書くのが苦手な子に、「きみは文字が書けないから、授業中はノートをとらないで、ただ座っているだけでいいよ」と伝えるのは合理的配慮といえるでしょうか？

困っている人は、何もできないわけではなく、みんなと同じやり方で行うのが難しいだけです。

そのため、「できないならしなくていい」というのは、その人のできることややりたいことをばっってしまうだけになります。

本当の合理的配慮とは、みんなといっしょに生活し、学ぶために、その人に合った方法を見つけることです。つまり、みんなできふうをして、同じように過ごせるようにすることが、合理的配慮といえるのです。



考えてみよう

図工の時間に、色画用紙をハサミでいろんな形に切ることになりました。しかし、クラスにハサミをじょうずに使えない子がいます。彼にはどんな合理的配慮をすべきだと思いますか？

くわしく知ろう！

合理的配慮は「話し合い」によって考える

みんなが学校でいっしょに学べるようにする合理的配慮は、先生が一方的に決めるものでも、困っている人が一方的にお願いするものでもありません。困っている人やその家族、先生などがみんなで話し合い、どうしたら困りごとを解決できるかをいっしょに考え、みんなが納得してから実行します。もし、何らかの理由で本人や家族が希望する合理的配慮を行えないときには、今できる別の方法をみんなで考え、見つけます。

ハサミを使えないなら、その子だけ切るのをやめればいいんじゃない？

でも、合理的配慮は「みんながいっしょにできるようにする」ためのものだよな？

その子には、かんたんな形を切ってもらおうようにしたらどうかな？

ばね付きのはさみのような、使いやすい道具を使ってもいいと思う！



先生からひとこと！

合理的配慮は、みんながいっしょに学ぶための手助けとして行うものだよな。だからこそ、「できないなら何もしなくていい」というのは、みんなといっしょに学ぶことにはならないし、特別あつかいみたいになっちゃう。まずは、その子がどんな手助けをしてほしいか、どんなことならできるかを聞いてみて、それに合った手助けをみんなで考えていきたいよね。

考えてみよう

マイカさんは、給食を食べるのに時間がかかってしまいます。食べられる量も少ないうえに、みんなが先に食べ終わってしまうので、いつもあせって食べるようになっていきます。マイカさんが楽しく給食を食べるためのくふうを考えてみましょう。



みんなで考えたマイカさんのためのくふう

自分にちょうどいい量を自由に選べるようにしようよ!

給食って、苦手な食べ物が出る時もあるし、暑い日はそんなに食べられなかったりするよね。だから、配膳のときに量を「多め・ふつう・少なめ」とか、選べるようにしたらいいと思う！カードやシールで希望を伝えられたら、わかりやすいよね。



考えるヒント①

「一人ひとりのちがいが」があることを知ろう
食事を食べる速さや量には、一人ひとりちがいがああります。これは身長や体重が人それぞれちがうのと同じように、自然なことなのです。また、わたしたちがふつうに感じる味やにおい、舌ざわりでも、とても強く感じられたり、いやなものとして感じてしまったりして、食べるのが難しくなってしまう人がいます。これは決してわがままではなく、生まれつきの体の特徴のひとつです。

考えるヒント②

まわりのようすも考えてみよう
給食中に、おしゃべりに夢中になって食べられなかったり、反対にまわりのおしゃべりがうるさいと、食べることができなくなったりする子もいます。そして、「食べ終わった子から遊びに行ける」というルールがプレッシャーになり、食事が思うように進まないこともあります。

考えるヒント③

自分のペースで給食を楽しもう
給食の時間で大切なのは、早く食べ終わることでも、たくさん食べることでもありません。みんなが自分のペースで給食を楽しむことです。みんながそれぞれにちょうどいい量を、ちょうどいいスピードで楽しめるように、給食時間のくふうを考えてみましょう。

食べ物の知識やつくってくれた人について知ってみよう!

食べ物って、味やにおいだけでなく、その食べ物について知ることでも、「食べてみたい!」って思えるようになるよね。たとえば、給食に出てくる食材についての「豆知識」や「つくってくれた人の紹介」などを話題にすることで、「食べてみたい!」って気持ちが高まるんじゃないかな?

5分ごとにリズムが変わる音楽を流してみたら?

食事に集中することが苦手な人もいると思うんだよね。そんなときは、給食中の音楽をくふうしてみたらどうかなあ。5分ごとにリズムが切り替わったりすれば、「この5分間でごはんを半分食べよう」とか、計画的に食べることができるようになるし、食べきるまでの時間の経過をしっかりとつかむことができると思うんだ!